

## ゴムと風の力

五十嵐 敏文

### 1. 本実践の主張

理科の楽しさである【自ら学びたくなる問題解決学習】を実現することが、他者意識を育て、学び続ける共同体としての3年2組が育つために必要なことである。

3年2組の子どもたちは、これまでに獲得してきた知識や、学びを通して発見したことを友達に伝えたり、友達から教えてもらったりすることが好きである。聞き手側は「〇〇くんは、△△博士だね」「そうなんだあ！初めて知ったよ！」など、大変好意的に聞いてあげることができ、それを友達の良さとして認めることができる。また伝える側も、「自分の話を友達に聞いてくれる」「学んだことを友達に伝えられてよかったなあ」など、自分の考えを表出し受け止めてもらえることに対して自己肯定感を得られている。

そこで今回は、学びの過程を経て知を獲得することができ、なおかつ、問いが連続し学び続ける学習過程を実現することができる問題解決学習に焦点をあてたいと考えた。仲間とともに問題を見出し、その問題が共有化されれば子どもたちは意欲的に学ぼうとするであろう。また、クラスで共有化された問題であるからこそ仲間とともに解決しようと力を合わせながら実験や思考を繰り返すであろう。それらの過程を経て獲得された知は、教えられた知とは異なり生涯忘れることがなく、自信をもって自分の知として今後活用したり表出したりしていけるに違いない。それだけではなく、仲間とともに問題解決学習を通して知を獲得すること自体に価値を見出せるにちがいない。このクラスで学びを創り上げてきた喜びや価値、知を獲

得する楽しさに気付かせることにより、学び続ける共同体としての3年2組を育てていきたい。

そこで必要となってくるのが他者意識を育てることである。この学習では、他者と競争したくなる材である車を一人に一台与え、一人一実験を取り入れることが他者意識を育てることにつながると考えている。「〇〇くんの工夫すごいな。どうやったのか教えて」「僕も真似しよう」など、他者の学びを認め真似しようとしたり、他者とともに車を走らせ走りの違いを比較したりする子どもの姿が見られるにちがいない。

つまり、3年2組の子どもたちが一人一実験を取り入れた問題解決学習を通して確かな知を獲得することができる単元を実現したとき、そこには、学び続ける共同体としての3年2組の子どもたちの姿が見られるであろう。

### 2. なぜこの教材なのか

#### (1) この教材について～単元設定の理由～

一学期の終わりにクラスのテーマである「みんなで〇〇しませんか」でぴよんぴよんガエル大会を行った。生活科で扱うことが多い教材ではあるが、子どもから出てきた願いを実現するためにも、そして今回の学習である「風とゴム」に結びつけられると考え、今回はクラスのテーマとして扱った。ぴよんぴよんガエルを工夫することはもちろんのこと、大会での判定の仕方など子どもたちの中から問題が次から次へと湧き出てくる、まさに理科の枠を超えた問題解決学習となり、子どもたちは様々な壁に当たりながらも最後は笑顔で終えることができた。おそらく、仲間とともに学ぶこ

との意味や充実感を実感できたのではないだろうかと考えている。しかしながら、二学期がスタートした今、夏休みを挟んだためなのか「みんなで〇〇しませんか」の声掛けが子どもたちから出てきていない。そこで、クラスのテーマの活性化を目指すためにも「みんなで（風やゴムの力を使って動かす）車を作って遊びませんか」と投げかけようと考えている。そのようなことから、「風とゴム」の学習内容は3年2組にとってこの時期に学ぶ価値があるのである。

## （2）主張に迫る手立て

（理科の楽しさである【自ら学びたくなる問題解決学習】を構想するために）

主張に迫る授業を構想するために、以下の3つを具体的な手立てとして設定した。

### ① クラスのテーマ「みんなで〇〇しませんか」と理科とを関連させる

クラスのテーマで経験した問題解決学習と理科における問題解決学習とが関連付いたとき、子どもたちはクラスのテーマでの学びの過程を振り返りながら、意欲的に理科においても同じように問題解決学習を創り上げていくであろう。

3年2組のクラスのテーマは「みんなで〇〇しませんか」である。「みんなで〇〇しませんか」を子どもたちが企画・運営していく中で、問題に出くわすことが多々ある。そのような問題に直面したときこそ、子どもたちの成長、そして、クラスの成長につながると考えている。このような問題を解決していく学びの過程はまさしく問題解決学習であり、理科の学びにおいても貴重な経験となり生かされるであろう。

### ② 一人一実験 ～子ども一人一人の願いや求め、問いを引き出すために～

個々が自ら学び続けたいと思える願いや求め、問いを引き出すことが、一人一実験を通してできるのではないだろうか。

自ら学びたくなる問題解決学習を目指すためには、自然事象とじっくり向き合うことにより子どもたちから願いや求め、問いを引き出すことが大

切である。そこで今回は、車を一人一台用意し、一人一実験を行わせる。子ども一人一人の願いや求め問いをしっかりとせ、共有させることにより、自ら学び続けたいと思える問題解決学習を構想したい。

### ③ 相互作用を起こさせる材の活用

～材が良ければ、子どもたちは自らかかわり合い学び続けるであろう～

相互作用にはいくつかのものが考えられる。子ども同士の相互作用、子どもと材との相互作用、子どもと教師との相互作用など。今回は子どもと材との相互作用に注目し、必然的に友達と競争したい気持ちにさせるであろう車を用いる。子どもと材との相互作用が活性化すれば子どもたちは仲間とともに学び続け、学び続ける共同体としての3年2組への成長につながるであろう。

今回扱う材は車にした。第4学年の「A物質・エネルギー（3）電気の働き」では、乾電池や光電池に豆電球やモーターなどをつなぎ、電気の働きについて調べる。また、第5学年には「A物質・エネルギー（3）電流の働き」があり、電磁石の導線に電流を流すことにより電磁石の強さの変化を調べたりモーターの仕組みを考えたりと、電流の働きについての考えをもつことができるようにする学習が予定されている。そこで、第4学年・第5学年でも同じ学習材で学び続けることができるよう、今回の学習では、プラスチックダンボールを用いた車を使用することにした。

## 3. 実践の概要

「先生ね、みんなと一緒にあるものを作って勉強したいんだ」と子どもたちに話しかけることから学習をスタートさせた。「みんなで〇〇しませんか」がクラスに定着してきた3年2組。子どもたちは、先生からの〇〇かなという思いで話を聞いていた。「え～、なにになに？」と聞く子どもたち。「先生が好きな車を作って勉強したいんだ」と言うのと、「やったー！！ 作ろう作ろう！！」という元気な返事が返ってきた。ものづくりが好きな子が多い3年2組であったため喜ぶことは予想していた

が、予想以上の元気な返事が返ってきた。一人一人に材料を渡し車の作り方を説明すると、早速子どもたちは車を作り始めた。作り終わると、手で押して車を走らせたり、廊下へ出て友達と競争したり、中には車に模様を描いたり、様々なやりたいことを子どもたちは始めた。最後は学習感想を書いて授業は終わった。

第2、3時は、「みなさんの学習感想を読ませてもらいました」から授業はスタートした。「車レースをしたい」「ゴムや風の力を使って車を動かしたい」などの感想がありましたと子どもたちに伝え、学習に見通しをもたせた。この時点ではまだ教師からの課題であったが、「より遠くまで動かすためにはどのようにしたらよいのだろうか」と、すでに自分の問いをもった子どももいた。風に比べゴムは、車を速く走らせるために工夫する要因が少なく、比較的予想通りの実験結果が出やすいため、「まずは輪ゴムを使って車を走らせよう」と教師から提案した。

第4、5時は、前時にホワイトボードに書いた子どもたちの気づきをまとめ直した。「ゴムを重ねるとよく進んだ」「ゴムをつなげるとよく進んだ」「力強く引っ張るとよく進んだ」「ゴムが切れないように力加減することが必要」「ゴム二本まではよく進んだけど、三本目からは進みにくかった」「ゴムは5本の方がよく進んだ」など、【ゴムの本数】と【力加減】についての気づきをまとめた。その中で、結果が分かれたものはゴムの本数についてであったため、学習問題「ゴムの本数を増やせば車はよく進むのか」を設定した。

その後は体育館で再び実験を行った。学習問題が明確になったため、子どもたちは目的意識をもって車を走らせていた。

第6時は、これまでの学びを振り返った後、「風の力を使って車を走らせるためにはどうしたらよいのかな」と問いかけた。子どもたちからは「下敷きで風を起こす」「団扇の方が良いと思う」「車に板をつけることが必要」「厚さや位置を工夫できそう」「割り箸を立てて帆をつければ良いと思う」などの考えが出た。風の起こし方や帆の工夫がで

きそうであると見通しがもてた状態で、工作用紙を一人一枚ずつ配り活動をスタートさせた。子どもたちは思い思いに帆を作ったり風を起こしたりしながら、友達とともに学んでいた。中には廊下へ出て友達と競争する姿も見られたが、机の上で黙々と一人で帆作りをしている子もいた。

第7時（本時）

【本時のねらい】

■車を動かすために、意欲的に風を起こしたり工夫して帆を作ったりする

【関心・意欲・態度】

■車を速く走らせるための工夫があることに気付く

【科学的な思考・表現】

【本時の展開】

1. 本時の学習活動を把握する。
2. 前時でどこまで進んだかを発表する。
3. 活動（帆を作ったり走らせたり）を開始する。
4. 学習をまとめ、学習問題を見出す。

## 4. 実践のふりかえり

### （1）Tくんの活動について

～造形活動なのか理科的追究活動なのか～

授業者としては、Tくんの活動は造形活動と理科的追究活動の両方の要素を含んでいると考えていた。本時は理科という教科の時間ではあったが、二つの要素を認めながら理科的追究活動へとつなげていきたいと考えていた。そうすることがTくんの学習意欲向上へとつながり、TくんだけではなくTくんの学びに刺激を受ける周りの子どもたちの学習意欲向上へとつながっていくであろうと期待していたためである。

しかしながら協議会での指摘通りに、授業者が意図していたような理科的追究活動としての学習問題へとつなげられずに本時は終わってしまった。その要因の一つとして考えられることが、やはり、TくんだけではなくMくんなど数人の活動が造形活動に偏り過ぎていたことであろう。車に乗せる人形を作成していた姿からも明らかである。

【低学年総合】と【理科】との架け橋となる本単

元において、理科的追究・造形活動をねらったことについては誤りではなかったと考えているが、架け橋にするための手立てが足りなかったと考えている。

## (2) 子どもたちの気付きをクラスの学習問題にすることができなかったことについて

協議会で「考察」という言葉が何度か出てきた。この「考察」こそが、子どもたちの気付きを学習問題へと練り上げていくために必要な手立てであったと考える。

### 【工夫したこと・結果】

- (S) 帆に穴をあけて後ろにもう一枚帆をつける
- (K) 風が逃げにくくなるよう帆を曲げた  
→とっても速くなった
- (T) 帆を大きくした。→後ろへ下がった
- (S) 大きくしたら進んだ  
→(M) 大きすぎると進まなくなるのでは??

上は子どもたちの発言であるが、例えば子どもたちに考察させるために

T: Sさんの発言に対してどう考える?

と授業者が問いかけていれば、

(A) 私は関係ないと思う。理由は一枚目の帆でしっかりと風を受けていれば同じだと思うから。

(B) 私は関係あると思う。軽くなるし、風が集まって車は進みやすくなると思う。

T: Sさんは何で穴をあけようと思ったの?

(S) …。

(C) とりあえず実験して比べてみようよ。

と、学びが発展していった可能性がある。また、それに続いてKくんの発言に対しても「Kくんの発言に対してどう考える?」と授業者が問いかけていれば、

(A) 風を逃がさないために僕は良い工夫だと思うよ。

(B) 私も。帆が風を受けて車が進むから、風の力を使って車を動かすためにはとっても良

い工夫だと思う。

(C) ということは、Tくんの工夫もたくさんの風の力を使うためには良い工夫だよね?

(D) けど、後ろに下がったみたい…。

(E) ということは、どういうこと? Sさんが言っていることと、Tくんが言っていることが違ってるけど。

(F) Mさんが言っていることも分かるし。

(G) 帆が大きいと車は速く進むんだよね?



【学習問題】 大きな帆は車を速く走らせることができるのだろうか

結論が出た後は、

【学習問題】 帆に穴を空けると車を速く走らせることができるのだろうか

と学びは連続していったかもしれない。このようにうまくは連続していかないとしても、子どもたちの問いや気付きを集約させることはできたはずである。また、授業者が期待していた風の強さや帆の大きさの条件を統一しようとする姿にも迫れたに違いない。

### 【参考・引用文献】

※藤田留三丸、「学びの過程をふりかえる」『理科の教育』8月号、Vol. 58、No. 685、pp. 20-22、東洋館出版社、2009。

※五十嵐 裕和、東京学芸大学附属世田谷小学校「子どもの主体的な自然観を育成する理科の学習過程」東京学芸大学附属学校研究紀要 第21集 pp65-71、1994

※上田信行、「プレイフル・シンキング」、株式会社宣伝会議、2009。

【学校教育目標】

思いやたかに  
考えふかしく  
ともに生きる子

【学年部目標】

発見と追求を支える協働を！

↓

支え合う仲間

【担任の願う子どもの姿】

☆人の話を最後までしっかりと聞ける子（友達の話、教師の話）

☆集団生活のルールを守れる子（学校のルール、クラスのルール）

☆友達と協力できる子（総合学習、遊び、学習）

☆様々なことにチャレンジできる子（あきらめずに、粘り強く）

【学級の児童の実態】

《生活面》  
○「あれをやりたい」「これもやりたい」など、何事にも興味をもち進んで取り組むことができる。  
○日々の係や当番活動に、とてもまじめに取り組むことができる。  
○クラスでの話し合いでは、意見が活発に出る一方で、友達の意見をしっかりと聞いたり、受け入れたりすることができない場面も見られる。  
→自分の願いを伝えたり実現するために必要なことを考えたりすることは得意であるが、友達の話を聞いたり友達の願いを大切にすることが苦手である子が若干名いる。  
《学習面》  
○どの教科でも、意見が活発に出る。  
→友達の考えと比べながら自分の考えを発表できている子がいるので、話し合いが活発化している。  
○日々の学習を大切にすることができている子が多い。→計算や漢字の宿題を計画的に進めることができる。  
○落ち着いて丁寧な字を書くことができる子が多い。→新出漢字をしっかりと覚えていく。  
  
生活面や学習面ともに、低学年からの積み重ねがきちんと定着している子が多い。

【まとりの1学期】

■人の話を最後までしっかりと聞けるしつとりとした雰囲気  
～クラステーマ「みんなで○○しませんか」の確立～  
「人の話を聞く」ということは、集団生活を営んでいくために一番の基礎になるとなる。低学年総合の流れを受け継いで「みんなで○○しませんか」を朝の会などで自由に提案できる雰囲気を確立させたい。この活動を確立させることでしつとりと話を聞けるクラスの雰囲気作りへつなげていきたい。

期待する他者意識

☆他者の考えを聞き合う学び集団に向けて  
《他者のよさを認め、弱さに対しては配慮できる》

■友達に声掛けできる

■個を認めてあげられる

■折り合いをつけることができる

■相手を思いやり、ゆずることができる

具体的手立て

① スピーチ活動の充実  
初めてのクラス替えを経験した子どもたちであるためクラスの友達についてよく知らないことも多い。発達段階を考えると、積極的に自分のことを話したり友達の話を聞いたりしたいであろう。そのため、スピーチ活動の機会を増やしクラスの友達について知ることができるようにする。

② 「クラスのみんなで○○しませんか」の確立  
自分の思いを表出したり、友達の願いを知ることができる。

評価・振り返り

① スピーチ活動は「自己紹介」「○○についてお話ししよう」の二本柱で進めてきた。人前で話すことが好きな子、苦手な子がいたが、とりあえずは行えた。質問も活発に飛び交っていた。良い調子。

② 「○○しませんか」を通して、誰がどのようなことを考えているのかが見えてきた。

【見つめる2学期】

■お互いを認め合える温かくもしつとりとした雰囲気  
～クラステーマ「みんなで○○しませんか」の充実～  
一学期に「○○しませんか」と提案した子どもたち以外の子たちであっても提案できる雰囲気を確立させたい。誰でも自由に提案できるということは、お互いを認め合い様々な考えを受け入れられる雰囲気になっていることである。より多くの子どもたちからの提案を期待する。

☆他者と関わり合う学び集団に向けて  
《クラスの友達と一緒に楽しみながら学べる》

1人ではなく、クラスの友達とともに学んだり遊んだりすることを楽しむことに気付かせたい。また、受け身ではなく、自分から行動し活動を創り上げていくことの大切さや楽しさにも気付かせたい。

① 子どもたちから問いを引き出す  
1学期にみんなで話し合って実行してきた「みんなで○○しませんか」の振り返りの場を設定する。クラステーマについてとことん話し合うことを通し、自分とは違う友達の考えや思いを知り認めていく機会にしていきたい。

② 知の構築を図る  
仲間との学びを通して確かな知を獲得し構築していけるようにする。知を獲得することの喜びを味わわせたい。

【まとりの3学期】

■最後まで粘り強く取り組むことができるしつとりとした雰囲気  
～クラステーマ「みんなで○○しませんか」のまとめ～  
長期的な見通しをもって取り組む必要のある「○○しませんか」の活動を行いたい。話し合い、実践、評価、振り返りの流れを通して、クラスみんなで活動を創り上げていける集団へと成長させたい。

☆他者を思いやる学び集団に向けて  
《クラスの友達のために行動できる》

1年間の振り返りを行うことにより、個人の成長、クラスの成長をみんなで認め喜び合いたい。学習面、生活面における個人の成長を振り返ることにより、友達がいたからこそ成長できたことに気付かせたい。そのことに気付いたとき、子どもたちは自分を成長させてくれた友達のために行動したいと思うであろう。

① 評価活動を取り入れる  
総合学習、道徳、クラスの時間等でこれまでの振り返りを行う。様々な視点から評価することによって自分の良さや友達の良さに気付く、他者を思いやることにつながるであろう。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活実践	学校文化 学年文化 学級文化 総合学習 道徳	入学の会 学年集会（常時不定期） 学級開き（自己紹介をしよう）	運動会 学年集会（常時不定期） 学級活動（係、当番、日直）	夏休み	教育実習期間	遠足（ズーラシア）	社会科見学（工場）	冬休み	卒業の会	卒業の会	卒業の会	卒業の会
	道徳	自分自身に関すること【正義・勇気】【明朗・誠実】 【自立・節制】【思慮・反省】【勤勉・努力】	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）	学級活動（係、当番、日直） 学級活動（係、当番、日直）
教科学習活動	国語 社会 算数 理科	消しゴムころりん 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう	国語辞典 おもしろいもの見つけた 学校のまわりを探検しよう 長し算とひき算 かけ算のひっ算 時間と時こく 表とグラフ 附小の自然と遊ぼう
	体育 音楽	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検	リレー 運動会 ハンドボール 水遊び 楽しくのって歌おう （情景を思いうかべて） 歌とつながれ！！ （鍵盤ハーモニカ） 楽器探検
図工	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー	でこぼこさがし 粘土タワー 絵の具の痕跡から 人型で運動会 くぎうちとんとん 新聞紙タワー

【関連性を高める手立て】

これまでの学習が今につながって生きていることを実感させるために。クラスのテーマである「クラスのみんなで○○しませんか」を活用し学習の振り返りを大切にしていこう。これまでの学習に関するものづくりや実験・体験を行ったり、各教科の内容から発展・深化したものを体験したりできるようにしたい。